

新刊図書整理業務の外注化プラン

2002.10.31

東京大学 小山 憲司

九州大学 秋月 滋

一橋大学 豊田 裕昭

1. 各大学図書館を取り巻く図書整理業務上の問題点

進まない遡及入力
人員不足
慢性的な滞架図書の山

問題点の原因

進まない遡及入力の原因

予算不足 > 単発的な予算では問題は解決しない

人員不足の原因

人員削減 > 増えることは期待出来ない

慢性的な滞架図書の山の原因

ルーチンワーク外業務の増加

整理業務の多様化 > 減ることは期待出来ない

2. グループ討議テーマ

予算的背景が期待できない現状において、現人員体制のまま、業務も増やすことなく、目録作成のスキルを失うことなく、問題点を解決するための提案を行う。

3. 問題点を解決するための1つの提案

TRC 社等 図書取り次ぎ業者による「新刊書納入システム」の導入

4. 新刊図書納入システムとは

TRC 社が、新刊和図書を同社から割引なしに、定価にて購入することにより、発注・受入・整理・装備・納品まで標準で行うシステム

5. 新刊図書納入システム導入のメリットとデメリット

新刊図書納入システム導入のメリット

新たなる予算の確保は不要

新刊和図書に関わる発注・受入・整理・装備・納品業務が軽減できる

新刊図書納入システム導入のデメリット

購入冊数が減る

地元書店の切り捨てが行われる

自館蔵書構成のイメージが希薄になる

6. 遡及入力の評価:従来体制 (遡及入力は外注化 新刊図書は図書館員)

利点 ・単発予算のため、予算計画を立てやすい

・対象冊数が明確である

欠点 ・遡及入力はヒット率が低い

- 流用入力、オリジナル入力が多い

- 流用入力、オリジナル入力には、データ検収が伴う

- 流用入力、オリジナル入力は契約単価が高い

・書誌の同定や疑問点にレコード調整が伴う

・業者のスキルに問題がある場合もある

7. 遡及入力の評価:今回のプラン (新刊図書は外注化 遡及入力は図書館員)

利点 ・新刊書はヒット率が高い

- 流用入力、オリジナル入力は、TRC マークにより
行われ、信頼性が高い

- データ検収の必要性が薄くなる

- 目録作成の高度なスキルを必要としない

・入力コストは、図書購入費に含まれる

・レコード調整は最小限となる

8. 「新刊図書納入システム」導入の効果(まとめ)

新刊和図書を外注化することにより、継続的にそれまで新刊和図書にかけていた時間と労力が、不要になり例えば遡及業務の促進、滞架図書の早期解消、サービス業務の充実等に流用することが可能となる。

提言

「新刊図書納入システム」を採用することにより、予算的背景が期待できない現状において、現人員体制のまま、業務も増やすことなく、目録作成のスキルを失うことなく、多くのメリットを享受することが出来るといえる。よって、「新刊図書納入システム」を採用することが望ましいと考えられる。

もし、このプランが採用されなかった場合においても、図書整理業務に対して臨時予算が確保されるのであれば、遡及入力を図書館員が行い、新刊図書の受入・登録を図書館員以外が担当するような業務分担計画が、検証結果に見られるような多くのメリットを享受することができるといえよう。